

那須水害から20年

町を襲った水害

雨が多い日本では、毎年、全国のどこかで大雨による河川の氾濫などにより、住宅や公共施設に損害を与え、時には人命を奪う「水害」が起っています。水害は、私たち日本人にとって身近な災害のひとつといえます。本町でも、過去に集中豪雨による被害を何度も受けており、その中でも、平成10年8月に発生した集中豪雨災害「那須水害」では、濁流が町内各地を襲い甚大な被害をもたらしました。

那須水害を振り返り、今私たちにできることは何か、考えてみませんか。



5日間降り続く大雨

平成10年8月26日から31日にかけて、前線が日本付近に停滞し、台風4号が日本の南海上をゆっくりと北上し、この期間、台風の影響も加わり前線に向かって暖かく湿った空気が南から流入して前線の活動が活発となり、北日本や東日本を中心に雨が断続的に降り続き、町は記録的な大雨となりました。

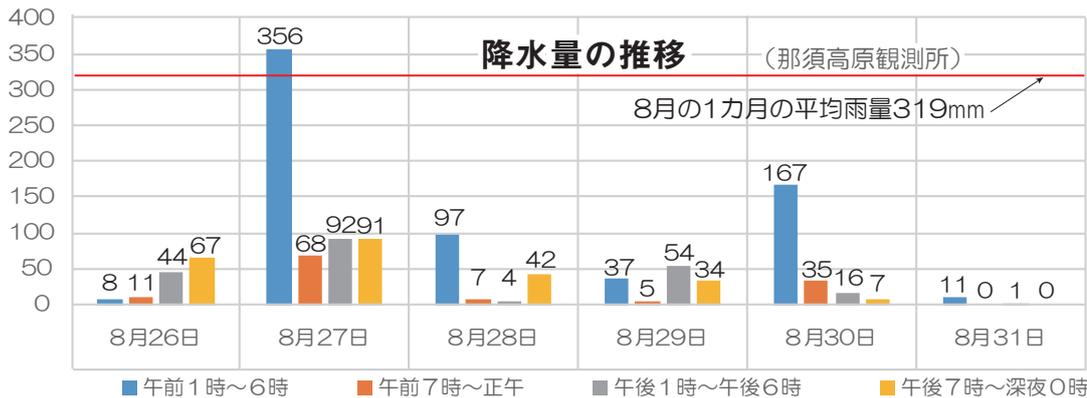
26日未明から降り出した雨は5日間連続して130mm以上の日降水量を観測し、総雨量は1,254mmに達しました。特に27日には、1日の降水量が607mm（8月の1カ月の平均雨量の約2倍）に達し、余笹川の氾濫により堤防が決壊したことで住家約10棟が流出、多数が浸水するなど、大きな被害が発生しました。

町では、27日に災害対策本部を設置し、自衛隊の派遣要請、災害救助法の適用申請を行い、避難所の開設、給水・給食活動、生活必需品の供給などの災害応急対策を実施。また、町消防団員は5日間で延べ

643名が出動し、逃げ遅れた住民等30名を救出したほか、土の積みみや避難誘導を行いました。天候が回復した9月1日から行方不明者の捜索活動が行われ、

県警機動隊を主力に消防団、消防署、自衛隊が加わり、12日まで延べ3,300名が動員され、捜索により2名の犠牲者が発見されたものの、残る2名は未だ不明のまま今年で20年が経過します。

降水量の推移 (那須高原観測所)



町の過去の集中豪雨による被害 (平成10年8月集中豪雨を除く)

発生年月日	被害概要	損失額(円)
昭和36年6月28日	流失家屋14、田畑流失、冠水、崖・山崩れ、橋梁流出等	—
昭和52年9月3日	流失家屋6、床上浸水56棟、床下浸水92棟他	355,000,000
昭和56年7月14日	床上浸水1棟、床下浸水3棟、道路決壊他	93,780,000
平成3年8月21日	全壊家屋1棟、床上浸水6棟、床下浸水4棟、道路決壊他	16,150,000
平成4年5月24日	床上浸水2棟、床下浸水6棟、農産物被害他	90,278,000
平成11年7月13日	負傷者1名、全壊家屋1棟、半壊14棟、床上浸水9棟、農地流失他	2,700,000,000